



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第七四号）

小寒しょうかん

一月五日



越賀の弓引き

伊勢志摩地方の沿岸部には、正月行事として弓引きをするとおろが多くあります。年頭にあたり、矢を的にあて、その年の豊漁や豊作を占うもの、先志摩半島の越賀では毎年、熊野灘に面した浜で行われています。

この弓引きは、越賀の黒森というところに、夜な夜な妖しげな怪物がでるといので、若宮八幡（のちに合祀され越賀神社に）の神さまが沖合の小島から矢を二本放って、退治したという故事に由来します。そのため、境内ではなく浜で行うのが恒例です。

神社から八〇〇メートルほどの西方の浜に着くと、風は強いけれども、冬の陽射しに照らされた海はさらさらと輝いていました。とび色をした海面はいかにも冬らしいですが、夏のぬけるような青にはない、凜とした海しきがあります。

弓場では袴姿の二十歳前後の青年三人が二本の矢をもって、一人ずつ射っていきます。射手はかつて七日間神社に籠もって熟練者から練習しましたが、今は五日間ほど通います。緊張する場面ですが、後で話しを聞くと、楽しかったとのこと。的と心をつにして射るといいようです。強い水軍であった越賀の男性は「越賀隼人」とその勇壮ぶりを讃えられましたが、祭りの主役を張った射手にその片鱗を見たように思いました。

それにしても弓を射るごとに、参列者が日の丸の扇子を広げ、掛け合う祝い詞の面白いこと。

「この一矢に今年の吉凶をかけて、丘は豊年満作（まんさく）、海は大漁（たいりょう）、真珠は（ピンク、ピンク）、あたるもあたらぬも御神事（ごしんじ）、びっしやりと あたらっしやれ」。

一月第二日曜に行われる勇壮かつユニークな弓引きです。

文 千種清美

